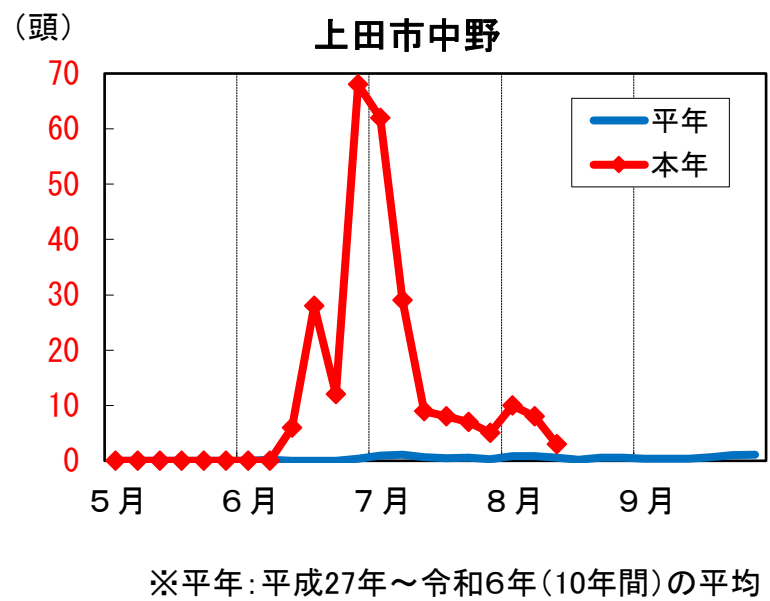


予察灯によるアカスジカスミカメの誘殺消長【令和7年(2025年)】



・上田市では、6月第3半旬に3頭初誘殺され、その後平年と比べ非常に多い誘殺頭数でした。

・伊那市では、6月第3半旬に3頭初誘殺され、その後平年と比べ非常に多い誘殺頭数でした。

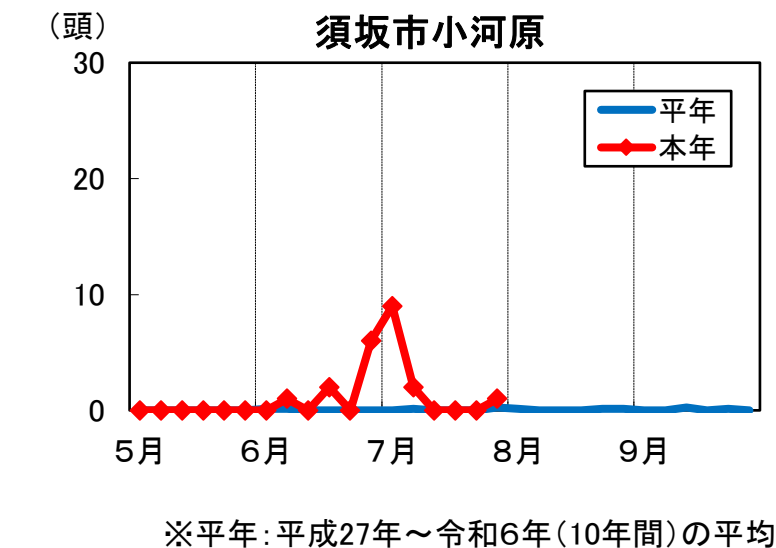
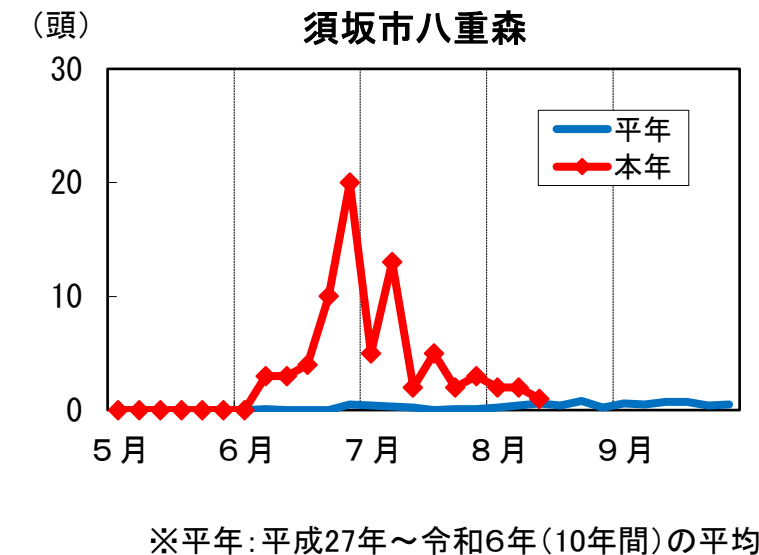
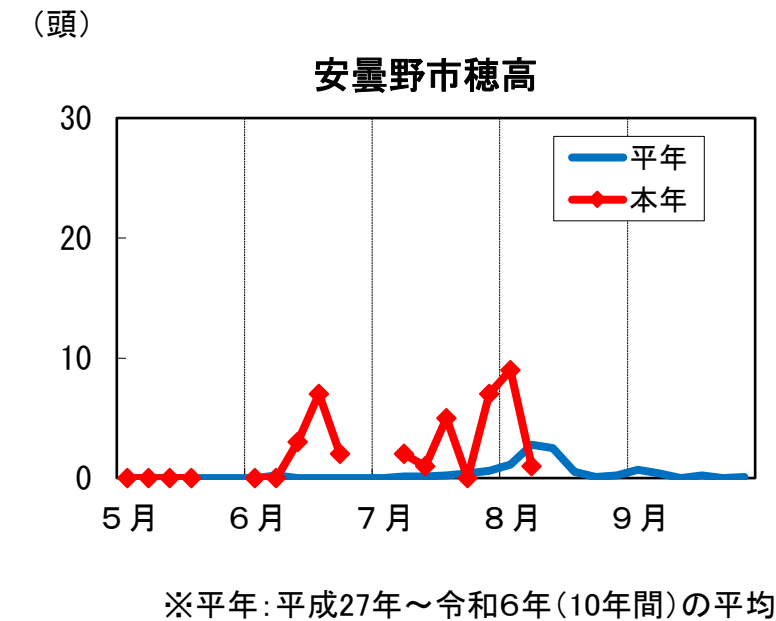
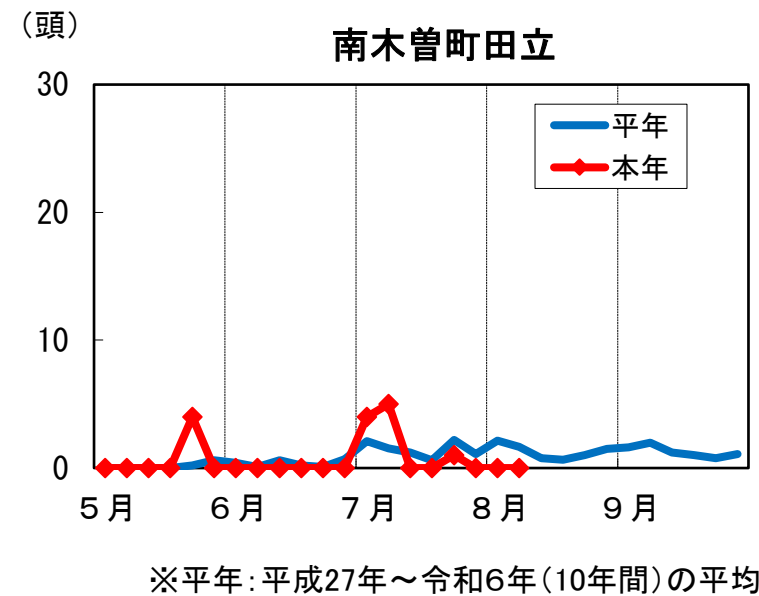
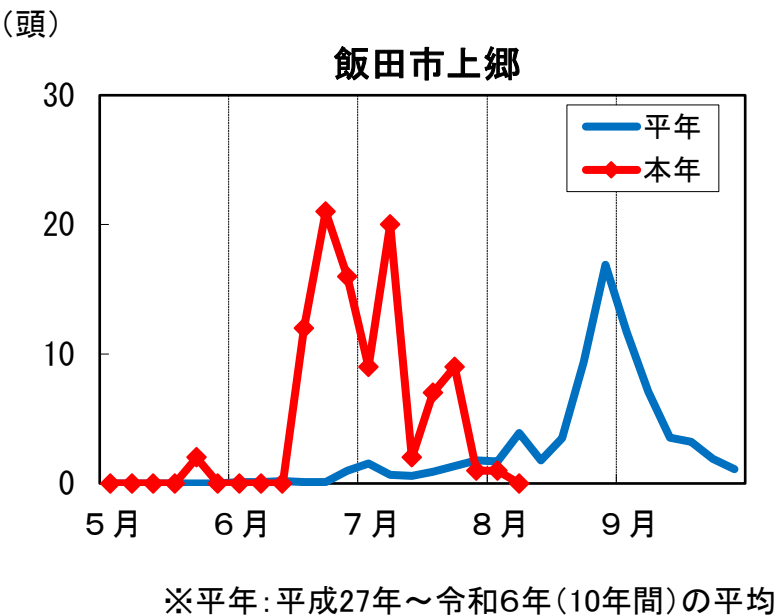
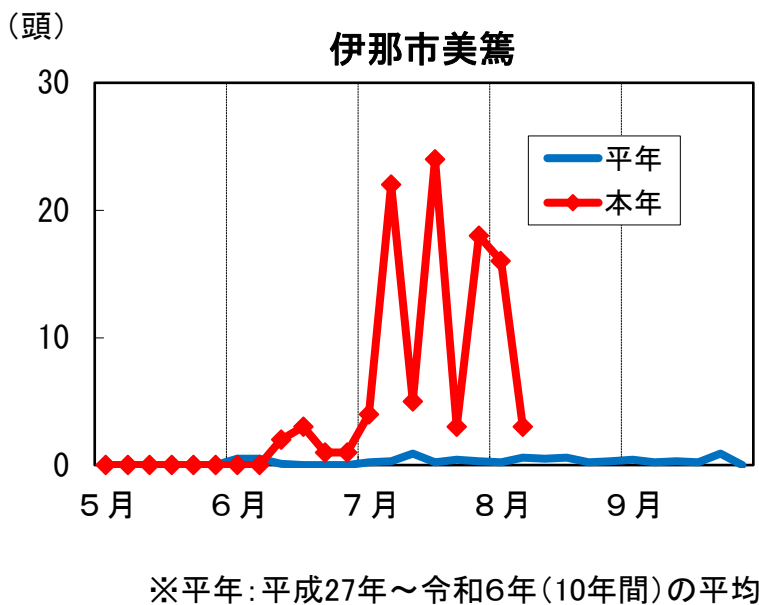
・飯田市では、5月第5半旬に2頭初誘殺され、その後平年と比べ非常に多い誘殺頭数でした。一方、7月第6半旬以降は平年と比べやや少ない誘殺頭数でした（8月第3半旬は予察灯の電球切れのため欠調）。

・南木曽町では、5月第5半旬に4頭初誘殺され、その後ほぼ平年並～やや少ない誘殺頭数でした。

・安曇野市では、6月第3半旬に3頭初誘殺され、その後平年と比べ多い誘殺頭数でした（5月第5半旬から第6半旬、6月第6半旬から7月第1半旬は予察灯の電球切れのため欠調）。

・須坂市八重森では、6月第2半旬に3頭初誘殺され、その後平年と比べ非常に多い誘殺頭数でしたが、7月第3半旬以降は平年と比べ多いものの、やや誘殺頭数は落ち着きました。

・須坂市小河原では、6月第2半旬に1頭初誘殺され、その後平年と比べ多い誘殺頭数でしたが、7月第4半旬以降は平年並となりました。



(参考)

1 発生生態

斑点米を発生させる主要害虫のアカスジカスミカメは、卵で越冬し、畦畔や水田周辺のイネ科牧草・雑草地で増殖します。水田への侵入のピークは出穂期6～15日後あたりで、稲への加害時期は開花期と登熟期に集中します。出穂期の早い早生品種で被害が多くなる傾向にあります。上のグラフは予察灯(ライトトラップ)で捕獲された成虫数です。

2 防除時期・対策等

出穂期10日後に防除を実施し、常発地では7日～10日後に追加散布を行います。粒剤は効果の発現までに時間を要するため、3日程度早く処理します。水田畦畔の草刈りは出穂2週間前までに実施し、出穂直前はカメムシを水田内に追い込む恐れがあるため行いません。